昭和二十二年度

三田柔友会の活動

学校柔道の追放という事態に対応して、塾柔道部員は三田柔友会の客員として、柔道を続けることになった。ここに当時柔友会学生幹事であった高木亮君が昭和二十二年十月現在の状況報告として当時記述されたものを紹介する。

一、稽古状況

十月一日より飯塚師範所有の至剛館にて、一週五日間（月より金まで）午後一時より四時迄稽古を行う。約十日間の出席状況は三田警察当時（この以前は三田署道場を借用）に比較して大学生の出席率は稍々低下するも、中等部生の出席率は日を追いて上昇し、中等部一年生に数名の新入部員を得て稽古状況は優秀と認む。尚今月末日迄には三十名近い中等部生を得る見込なり。

二、現部員の内訳

稽古継続の意志ある者大体左の如し。

大学生（予科生を含む）三十二名

普通部生　三十数名

中等部（商工）　十名弱

目下の処出席率は予科生以上十名から十五名、商工部約十五名内外、商工部が目下普通部に比べて地理的にも不利なため僅かの数であるが先輩の努力により順次増加の見込みあり、出来得れば十一月の秋季大会に三年振りで商工対普通部を行うつもりなり、尚予科生以上で稽古継続の意志ある者次の如し。

幹事　四段　成毛　英臣（医専四）

三段　富沢　英郎（本　二）

三段　依田祥太郎（本　二）

二段　益子　潔（本　二）

二段　島　東資（本　一）

二段　中西己代治（本　一）

初段　古屋　鴻（本　三）

初段　高木　亮（本　三）

二段　松本　次雄（〃）

〃　梅沢　渉（〃）

〃　伊東　祐英（〃）

〃　長田徳太郎（医　三）
〃　工藤　邦夫（本　三）
〃　福田　祥一（本　一）
三段　飯塚　一陽（予　三）
二段　堀内　晃（〃）
初段　笠原　慶治（〃）
〃　渡部　武彦（〃）
〃　小菅　晃（〃）
二段　成毛　雅臣（予　二）
〃　水谷　隆（〃）
〃　徳永　一郎（〃）
〃　高橋　孝（〃）
〃　菅原　甫（予　一）
〃　菅原　春雄（〃）
〃　左海　章吾（〃）
〃　美沢　勉（〃）
三段　向井　忠（本　一）
〃　石川　（〃）
〃　上野　貞晴（本　三）
〃　望月彦四郎（〃）
初段　平野　（予　二）

以上　三十二名

三、会計の状況

現在高　九〇〇円也

A　収入　至剛館借用費は毎月一人五〇円（その他入門料五〇円）の規定なり、入門料は今春予科生以上の勤労作業により得た。部費二、〇〇〇円にて補う。目下の処大体部費として毎月予科生以上　月三〇円、中等部生月二〇円を支払わせ、それを以て部費収入とする。大体最高一、五〇〇円未満と予定する。

B　支出　道場費は大体一括して納入する。契約なるため、一〇月は一、五〇〇円（入門料含まず）納入し、来月あたりから大体月毎に人員の増加と共に一〇〇円乃至三〇〇円程度の追加を行う予定なり、その他の支出として雑費が最少限三〇〇円、大会及び行事の賞品積立金が三〇〇円程度は必要であり、大体最低二、二〇〇～二、三〇〇円を要するものとす。

C　差額　収入は目下の処、部費の収入により一、三〇〇乃至一、五〇〇円が最高であり、先輩よりの補助を合せて、やっと赤字にだけはならぬ見込なり、従って近々の中に部費調達のために勤労奉仕を行う予

定なり（予科生以上）

四、来春三月迄の行事日程

十月中旬　有級者月次試合

十一月三日　秋季大会

十一月九日　東日本府県大会出場

十一月中旬　オール早慶戦

十二月下旬　部員納会

一月中旬　寒稽古

二月初旬　有級者月次試合

二月中旬　部員総会

三月下旬　卒業生送別試合

結び　この十日間程飯塚師範直接稽古に臨まれ、初心者の稽古を直接指導される。又幹事中より当番とて責任者を定め道場での秩序規律に万全を期す。オール早慶戦を控え皆が張り切り何となく稽古にも熱と真剣味を帯びて来た事が明かに認められる。今月末日或は来月一杯には五十名近い部員を有し平均三十名近い出席率を以て稽古を行う事を目標とする次第である。

（マネージャー　高木　亮記す）

東日本対県柔道試合（毎日新聞後援）

（羽鳥六段個人・団体に優勝）

十一月九日　於　講道館

東日本二十三都道県から選出の一組三人の団体戦と、代表選士二十三名による個人戦とがいずれもトーナメント式で行われた。

羽鳥輝久六段は個人、団体の両試合に東京代表として出場、いずれにも優勝という強豪振りをいかんなく発揮した。

小泉塾長は塾柔道部の始祖とも言うべき和田義郎先生（初代幼稚舎々長）の写真入絵端書に、「柔道試合優勝何より愉快に存じます、塾の為めにも、個人としても。阿部秀助その他友人一同の喜びさぞかしと察します。右御祝いのみ、十一月十日」と誌し、羽鳥君の優勝をたたえられた。その戦績は左の如くである。

個人戦　第一回に千葉の横尾五段を釣込腰、準々決勝に北海道の島谷六段を左内股、準決勝に富山の高島五段を釣込腰、決勝では愛知の岩崎六段を足払に破って優勝。

団体戦　東京チームは六段羽鳥輝久、五段平野時男、

四段伊藤信夫で出場、次に羽鳥六段のみ、その戦績を紹介すれば、第一回宮城の黒田六段を釣込腰、第二回静岡の坂部六段を釣込腰、準々決勝愛知の岩崎六段を一本背負、準決勝山形の鈴木六段を小内刈、決勝新潟の宮内六段に優勢で全勝優勝を遂げた。

（講道館発刊「柔道」二十二年十二月第一八―六号）

団体の部

決勝戦

東　京　2――0　新　潟

伊藤信夫(4)　引分　駒沢　剛(4)

○平野時雄(5)　背負投　斎田五一郎(5)

○**羽鳥輝久**(6)　優勢　宮内英二

対県試合優勝の栄冠は東京都に輝く。

個人の部

第三回戦

勝		負	
岩崎正義(6)(愛知)	払腰	今村寿(4)(神奈川)	
坂部保幸(6)(静岡)	優勢	大坂安太郎(5)(秋田)	
羽鳥輝久(6)(東京)	内股	島谷一美(6)(北海道)	
高島道夫(5)(富山)	跳腰込	駒沢剛(4)(新潟)	

準決勝戦

勝		負
岩崎正義(6)(愛知)	跳腰	坂部保幸(6)(静岡)
羽鳥輝久(6)(東京)	釣込腰	高島道夫(5)(富山)

決勝戦

○**羽鳥輝久**(6)(東京)　岩崎正義(6)(愛知)

羽鳥の出足払見事に決って、堂々個人の覇を握った。

OB合同早慶戦の役割

羽鳥　輝久

学生柔道が学内から締め出された期間の関係者の活動については種々の記載がある通りですが、その一環として合同早慶戦が三回に亘り行われた経緯について記しておきたいと思います。

学生は三田警察、済寧館、至剛館と稽古場所を選んでは努力する一方強くなりたいとの意欲に燃えて、荒廃はしていましたが本山の講道館にも通いました。その学生が肩身のせまい思いをしないようにとの気持もあって、阿部芳郎、田岡協、石渡英二、水谷英男、小生等のOBも週一、二回は稽古に通いました。

一方学内禁止を解くための運動を幅広く進めるために各校のOB有志を叫合して学柔連の組織作りを始めまし

た、その中に早大OB後に稲門柔道会々長をされた赤山政治氏がおられ、

一、学生柔道の良さを示すため。

二、復活の暁には直ぐ早慶戦を復活できるよう下地を作っておこう。

ということで意見の一致をみました。

学生は早大が集められる数とし、OBは成可く年令、体格を合わせた組合せを作って実現したのであります。

試合結果は学生時代の苦手に楽勝したものあり、逆の者ありでなごやかに行われました。

戦果について概して云えば塾の方が東京に生活の本拠を持った人が多かったのか、或は闇が上手だったのか、食糧難にも拘らず十分食べていた人が多かったので、体力勝したようでもあります。

何はともあれ第二の目的は十分に達成され、これが誘因となって昭和二十八年に早くも第五回早慶戦が実現したのだと自負しております。

第一回　早慶O、B柔道戦

第一回早慶OB柔道戦が、十一月十六日講道館道場において開催された。婦人を交えた多数のファンは続々とつめかけ、真にスポーツらしいノビノビとした好試合続出に感銘深きものがあった。当日の戦績は次の通り。

三田 12 —— 3 稲門

成毛雅臣(2) 引分 中里弘吉(2)
島東資(2) 引分 小田欣一郎(2)
○依田祥太郎(3) 大外刈 佐々木一孝(2)
○飯塚一陽(3) 内股 村木不二彦(3)
○富沢英郎(3) 大外刈 服部国男(3)
○成毛英臣(4) 払腰 片岡竹夫(3)
水谷英男(4) 引分 大沢慶巳(4)
○横井肇(4) 大外刈 金田貞義(3)
石渡英二(4) 引分 阿部博(3)
○園田康(4) 大外刈 永井茂(3)
○小坂肇(5) 大外刈 田島衛(4)
○大館三郎(5) 横四方 草野静夫(5)
○吉川太兵衛(5) 上四方 鈴木吾郎(5)
○山崎高(5) 足払 成田嘉正(5)
水ノ江公英(4) 足払 ○海瀬正康(5)
三井文雄(4) 払腰 ○細川猛(5)
○羽鳥輝久(6) 背負投 尾崎稲穂(6)
田岡協(6) 引分 岩科茂雄(6)
○五島勇雄(5) 大外刈 岩田悟朗(4)
五島三雄(6) 引分 赤山政治(6)

太田次雄(6) 引分　三船四郎(6)
蜷木敏男(6) 上四方　○瀬谷浩
木村喜八郎(6) 引分　友成康
阿部芳郎(6) 引分　佐藤五八郎(7)
鈴木義雄(6) 引分　佐々木雄蔵(7)

慶大。先輩、古屋幸三五段、岡崎俊助六段、満州関係、飯山七段、以上戦争犠牲の方々に対して謹んで弔意を表し瞑福を祈りたい。

（二二・八　柔道第十八―三号）

余録「春日町時代の塾の人々」

早稲田先輩八段　高広　三郎

三十年前の思出、昭和の初め頃の講道館は大変活気があったように思う。中野正三氏が左右の大業で無敵振を示し石田信三、徳三宝氏等が強豪振を発揮し、中堅所には石黒、阿部兄弟、二宮、岡野、佐藤、工藤、川上等多士済々だった。一、慶大には沢山の名選手が居る。阿部兄弟は暫らく措いて田岡協君を語りたい第九回対満試合に岩科、石崎、村山五段を投げて中島五段に迫った内股の妙技は胸のすくものがあった。其後健康を少々害したと聞くが今如何。

岡崎俊輔君柔道も強かったが君の統制ぶりは立派だった。私は学生連盟で人間岡崎を高く買ったが措しむべし砲弾の犠牲になった。第六回対満試合で石崎五段を跳腰で投げた見事さは忘れ得ぬものである。